中友会

［発行所］
中　友　会
港区西新橋1-22-13
全日本中学校長会館202号室
東京都中学校長会事務局内
TEL　03-3504-8705
FAX　03-3504-8706

会則第２条
☯親　睦
☯互　助
☯生涯学習

http://chuyu-kai.org/

未来に生きる子供達にエールを

中友会副会長　一坂　倭子

二〇二〇年の秋深まる今、この一年を振り返るとあらゆる面で「新型コロナウイルス」が念頭から離れない年でした。会員の皆様は、いかがお過ごしでしたでしょうか。定年退職後の他からの制約の少ない日々を送っているはずの私にとっても、生活のあちらこちらでコロナ感染防止対策に直面しました。

その中で、学校は？子供達は？そして先生方はどう乗り越えて行くのだろうかと、とても心配な一年でもありました。中友会の会員の中には、今も現場に居られる方は、当事者として、一時の猶予もなく、新しい局面を乗り切って来られたことと思います。

私の周りでも、三月の突然の休校により卒業証書を校門近くで受け取った六年生は、四月再登校したわずかな日に在校生、保護者なしでの入学式が行われ、中学校に滑り込みました。教室で担任の先生から教科書を受けとることが出来たのは、幸運だったのですが、多くは六月まで入学式はお預けで、ネットのやり取りが始まったのでした。しかし現実にはネットで届くのは伝達事項のみで、会ったことのない教科担任から渡された小学校の復習と称するプリントの綴り、それを指定された日の指定の時刻に学校昇降口に届け、次のプリントが渡される。その繰り返しという学校もあったようです。オンラインでの授業や交流を直ぐに開始できた学校は素晴らしいと思います。

「学びを止めない」をモットーに、誰もいない教室でパソコンに語り続けた先生方の姿が目に浮かびます。先生方の精力的な働きは、教育界の大きな財産となり、それまでに教育機器を日常的に取り入れ、変化に対応する学校の力が働いたと思います。

また、生徒たちは各学校独自の行事、生徒会の取り組み、部活動等、受け継いできた伝統とは異なる状況で、力を発揮しているに違いありません。

対外試合の出来ない部活動、修学旅行は一旦中止になっても、3月卒業前には出来ると新たな取り組みで卒業式を膨らませている学校もあると聞きました。

各ツールで報道される学校例は一部ですが、すべての学校で、すべての生徒たちが貴重な三年間が送れることを願っています。緊急事態の中でやむなく実施され、体験したＩＣＴ（情報通信技術）による学校教育がその良さや必要性を、これからも大いに生かしていけることでしょう。

その上で私が懸念するのは、オンライン授業が良く実施された学校でも、その環境が整わない家庭環境（端末機器は手元に配られても、生かせる環境が整わない）、登校することで学校生活が保証されていた生徒の学校という場がなくなってしまった不安もあります。逆に長い休校の安心感から伸び伸びできたという生徒もいたと聞くと、それもまた大事なポイントです。

新しく実施される新学習指導要領の柱の一つが「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力の育成」と示されて初年度から未知の状況に放り出された感じです。

何時の時代にも、学校は未来に向かっています。私の知人は、ご子息の大学推薦入試はすべてオンラインで実施されたと話していました。

一人の人間が生涯にわたって獲得できるであろう知識を一瞬で取り込みデータ化することが出来るようになってきている。それをＡＩ（人工知能）と言う。空恐ろしい気もしますが、そのＡＩにできない事は、想像してこれからを自分の意志で決めること、ＡＩは膨大なデータから可能性の提示は出せても相手との関わりで、話し、聞き取り、共有しながら結局試行錯誤の中で結論を出していく、それが人間。色、音、空気を楽しめる人間。

退職して十五年の私には、未来に生きる子供達、先生、学校にエールを送るばかりです。